

十字園だより

第 122 号



クリスマス会

十二月二十四日水曜日利用者の皆さんが一年間で一番楽しみにしているのではないかと云っても良いくらい、恒例のクリスマス会が催されました。数日前から各寮、食堂、正面玄関は装飾され当日はおいしいクリスマスメニューで大満足。午後からはゴスペルに金管アンサンブル、音楽演奏に自然とリズムにのって踊り出す方、歌う方。笑顔がたえない時間でした。洋服や玩具、カレンダーなどのプレゼントも嬉しそうに受け取っていました。「また来年」ケーキをあっという間に食べ終えたSさんの一言に一年が終わるんだなあと感じました。来年も楽しいクリスマス会になりますように。

(水野)

みなさんに感謝して

園長 川原 昌義



この度、私は更生
慈仁会を
退職する
ことにな
りました。

今まで、お付き合いしていただいた行政の方々をはじめ、各学校及び施設関係者の方々や、慈仁会で出会った大勢の利用者とご家族の皆様、そして、職員に支えられ、お陰様で三十八年間も福祉という仕事に携わらせていただきましたこと、心から感謝申し上げます。

福祉も時代と共に様変わりし、幾度となく姿形が変わり、特にご家族の皆様におかれましては、その度に困惑してきましたのではないのでしょうか。そして、今ようやく落ち着きを取り戻し、私も久しぶりに十字園に戻ってきて、ゆっくりとご家族の皆さんとも向き合えるようになってきた三年目の春を迎えようとした時、

私に退職の時機が訪れました。振り返りますと、やはり若かりし頃の思い出の方が鮮明に思い出されるのは、私が年を取ったという事でしょうか。

「いや、それはきつと違います！絶対違います！」と言えは言うほど自ら墓穴を掘っているのかも知れませんね。

当時、ご家族の皆さんとは家庭訪問や地区懇談会そして面会日と様々な場面で語り合います。兄弟姉妹の方とはキャンプやスキーなど泊まり掛けでお互いの悩みや夢を語り明かし、打ち解け合います。利用者とは何をすることも一緒に動き、家に帰っていても、いつも利用者として一つになつて溶け込んでしまっていた日々を今でもはつきりと思い出すのです。

私にとって、利用者と一緒にいたことで、私自身の人生や人として大切なことなど、何か哲学的なことも一緒に考えさせてもらい、教えてもらっていたような気がします。今まで、有意義な時間を本当にありがとうございました。

心より感謝申し上げます。

家族会会長として

家族会会長 金田 和子

今年度より家族会会長を務めることになりました。ひのき寮でお世話になっている、小池士郎の姉です。

私事ですが、六年前に退職し母の介護を二年間、その間、十字園の行事参加・送迎等を行っていた父のギブアップにより、私が全てに関わることになりました。

まずコーヒーボランティアに入れて頂き、いろいろな方とお話しできるようになりました。「衣類はどこで買うのがいいか」「名前はどこに書いた方がいいか」「後見人の報告書類の添付は何か必要か」等、たくさんの方に相談のつて頂きました。

弟が不安定になり、どうすればいいか落ち込んだ時に

「大丈夫、大丈夫だよ。」と励まして頂いた時もあります。

私にとって家族会の皆さんは、「大変な事ばかりだけれど、また頑張ろう。」という気持ちになる心よりどころなのです。

はたして会長としてやっていけるのだろうかと不安にかられますが、皆さんの築いてきた大切なものを守っていきたいと思っています。

家族会としては、今後会員の皆さんの色々な意見を聞き、職員方の助言を頂き、役員で協議し、色々な事項を決定していきたいと思っております。

経験不足な私ですが、ひたすら一生懸命にやりますと申し上げるほかありません。

最後に、皆さんの意見・助言をお願い致します。

いつでも声をかけて下さい。よろしくお願い致します。

想うこと

看護師 野口 恵
課長補佐

今年度、心の中に残る大きな出来事と言えば、ご高齢のご利用者のお二人が亡くなったことです。お一人は病院で、もうお一人は一旦は救急車で病院へ行きましたが、病院から「治療すべきことはありません」という事で園に戻らなから亡くなりました。

生あるものはいつかは死ぬ。誰しもうれずれかは土に帰るのだという事を、頭では解っているけれども、心ではなかなか受け入れづらいものです。それまでに自分たちがやってきたことが果たして妥当だったのか、良かれと思って判断してきた事が、果たして最良だったのか。振り返らずにはいられません。それでもその都度みんなと話し合っていて、一つ一つやってきた事なので、施設として支援できたことは、今はこれが精いっぱいだったのかなとも思います。そんな中、神奈川県で、研修に行かせて頂く機会がありました。そこは主に重症心身障害の方や高齢の方

が利用されている施設で、参園とは少し違うのですが、参考になる事、勉強になる事が色々ありました。特に「認知症になったら命に限りが出る」という事。ご本人が何をしたいか、どのように行きたいかを一番に考えて支援する」という明確な目標を持った取り組みが印象に残っています。私たちはそんな支援ができたかどうか。言葉の無かったお二人ですが、ちゃんと気持ちをおしはかる事が出来たのだろうか。目を閉じて回想します。

介護技術も不慣れな中、一所懸命やってきました。ただただ一所懸命で、毎日「何をあげられるか」と与えてあげることばかり考えていました。

そして今、お二人を見送って一番思うことは「なんと多くのものを与えてもらったのだろう」ということです。人は、一方的な介護されているように見えても決してそうではなく、むしろ何かを与え続けているのです。死は悲しいですが、お二人から頂いたプレゼントを両手に包んで、いつか私も周りの人に与えたい、そう思うのです。

重度・高齢化への取り組み

課長補佐 久根内恵子

今年、十字園を利用されている方の平均年齢が五十二歳となりました。個々のニーズは様々で医療や介護の度合いが急に高くなる方もいれば、年齢を重ねても比較的健康なまま過ごしている方もいます。数年前から、重度高齢化に焦点を当てて、日頃から今後の支援の方向性を検討する会議を定期的に設けています。

一九六〇年の法整備により、知的に障がいをもつ方の公的な福祉施策が実施されるようになり、時代の流れに合わせて制度も変革を遂げてきました。

十字園にも何度かご助言いただいた、群馬県の独立行政法人のぞみの園では厚生労働省の科学研究費補助を受け「地域及び施設で生活する高齢知的・発達障害者の実態把握及びニーズ把握と支援マニュアルの作成について」の調査研究が三カ年にわたり行われており、二〇一五年が取りまとめの一年となっております。研究の推移を見守るとともに、このように十字園だけでなく、法整備から五十五年たった今、全国的に高齢の

知的障がい者の支援のあり方が喫緊のテーマであるのだと言えます。

そうした中で、今年度は高齢化に特化した取り組みを先駆的に進めている県外の施設へ見学にいかせていただきました。

①神奈川県の厚木精華園、②千葉県の北総育成園、③神奈川県のがみ野ホーム、④神奈川県綾瀬ホームの四施設です。実際に他施設の取り組みを目にして、十字園での課題の整理と解決への糸口にしていきたいと気持ちを新たにしています。



ひのき寮

主任 伊藤 孝之

今年度を振り返りまして、怪我や病気等で利用者、ご家族の皆様にご心配とご迷惑をおかけしまして申し訳ありませんでした。そしてご理解とご協力を頂きありがとうございます。ありがとうございました。

皆さんが元気で健康で、笑顔で生活していく事が何よりと思っております。職員はほんの僅かな事しか出来ませんが、利用者から力をもらい、ご家族から助けられ、今年度も頑張ってきた。

四月からは電車とテレビが大好きな四〇代の男性が加わりより賑やかなひのきになりました。

「環境面」・「余暇」・「日中活動」・「食事」の柱を基本に今後も生活の充実を図って行きたいと思っております。改善が必要な部分は手を加え、良いものは継続し、日に日に変わっていく利用者の状況に対応できるようにしていきたいと思っております。宜しくお願ひ致します。

行事 (弥彦ロープウェイ)

台風でサントピア外出中止となり肩を落とした一か月前。眼下に広がるは観覧車からの景色：ではなく、目にも鮮やかな弥彦の紅葉。

ロープウェイに揺られ、辿り着いた山頂では、澄んだ空気が心地よく、階段を登り切った疲れを忘れさせてくれる。青空の下でランチを満喫。あつという間に「ごちそうさん」最後に神社でお参りをし、大輪の菊が私たちをお見送り。清々しい皆さんの表情が、秋晴れの弥彦と調和した、温もりある1日でした。(玉井)



いぶき寮

主任 藤田富美代

「お一人お一人の福祉・生活ニーズに応じた個別支援を進めていく」を支援目標とし、進めて参りました。今年度初めに他寮より移ってきた方2名をお迎しのスタートとなり、当然ながら起る環境の変化で、利用者の方達には落ち着かない思いをさせてしまいました。が、ようやくいぶき寮らしい空間が戻ってきているように思います。月一回のお楽しみとして、お誕生日会とレクリエーションも行いましたが、美味しくケーキを頂きながら、楽しい時間を過ごされていきました。

現在の状況として、高齢化による体調面などの変化が見られます。それまで大丈夫だったことがそうではなくなっていくというところもあります。その変化に伴い、ハード面・ソフト面の両方から見直しを行ってきました。今後も安全に、そしてその方らしい生活を送れるような支援を行っていきたくと考えています。一年間ご協力ありがとうございました。

行事 (外食)

九月一〇日、岩室の花なり亭まで外食に行ってきました。

玄関先には池に鯉がたくさん泳いでおり、皆さん「こーい！」と手を叩いて呼び、沢山の鯉に驚いていました。お料理の方は、目でも舌でも味わえる物ばかりでした。ボリユーム満点でしたが、皆さん笑顔で美味しそうに食べていました。

ご飯の後は、お待ちかねのコーヒーを飲みながら一休み。晴れた日差しの中、ゆったりとした時間を過ごし、大満足の一日でした。(荒木)



けやき寮

主任 南波 龍太

今年度を振り返ると、利用者様のお返事を頂いて、大きな病気に罹り、怪我などなく過ごせました。このことは、ご家族の皆様のご理解とご協力の御蔭であります。この場をお借りして、御礼を述べさせていただきます。誠にありがとうございました。今年度のけやき寮は、『快適な生活を送れるよう環境整備に努めます。①清潔な居住空間②人間関係に配慮した支援』という目標を掲げ、寮職員一同取り組んでまいりました。この環境整備という課題は、今年度が仕上げの年でありました。まだまだ完全とは言えませんが、利用者の皆様保持、気づいたらすぐ清掃の意識は、職員にも根付いてきたと思っております。この環境整備、清掃の意識は、今後の仕事に従事する上で、今後も基本となつてくるものなので、引き続き啓発に努めてまいります。今年度のけやき寮は、日中活動に焦点を向けて取り組んでまいりたいと考えております。昼間に活動（仕事）を行う間は十分に睡眠を摂るとい、夜間は生活リズムの構築、日中活動を行う中で得られる楽しみ、充実感、これらを利用者の皆様に提供出来るよう取り組んでいきたいと思っております。

行事 (温泉)

初秋の風漂う十月某日、けやき寮利用者様六名で、寺泊は太古の湯へ日帰り温泉に出掛けてきました。行きの車中から、皆さんの心の中はお昼ご飯で一杯！「刺身ー!!」「ぼくはかつ丼がいいです」と心待ちにしている模様。いざ、到着してからは心逸る方もおられました。まずはお風呂：皆様、ゆつくりと温泉を楽しんだ後は、それぞれの美味しそうなお昼ご飯を目の前で、歓喜の声！ゆつくり過ごした後は、海を見ながら帰りました。(山岸)

俺、これ大好き!!
おーいしー!!



仲良しの♪



お風呂のあとの1杯!!

さつき寮

主任 高橋 保江

新年を迎え昨年の出来事を思い起こすと、寮内でインフルエンザが大流行したことが頭を過ぎりました。今年はそうならないことを祈りながら、振り返っています。二七名の利用者の皆様と、明るく、元気に過ごせた一年でした。また、日中活動・余暇活動の充実を目標に、活動的に過ごせた一年でもありました。寒い冬も皆で訓練棟へ向かい活動しました。嫌がる人は誰もいません。寮内だけの生活ではなく、一歩外へ出ることの意義を痛感致しました。至らない点が多く、ご家族の皆様にご心配やご迷惑をお掛けしたこともありましたが、温かいご協力のお蔭で、良い一年となりました。心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

行事 (ぶどう狩り)

九月の秋晴れの元、白根グレイプガーデンへぶどう狩りに行ってきました。まず皆で巨峰を一房ずつ摘み取ります。「どれがいいかな。」とゆつくり選び、綺麗で大きな物を取りました。次は数種類のぶどうを食べ比べ。甘くておいしいぶどうがいくつかありました。ジェラートも食べて、ふるさと村でランチも楽しみました。たくさん美味しい物を食べて、秋の味覚を満喫した一日でした。皆さんの素敵な笑顔が見られました。(山田)

ぶどう
おいしいねえ~♪



コスモス
#####

主任 小畑 敦子



Kさんの肩書は「書家」。十字園にも作品がたくさん飾られています。四十周年記念のファイルに書かれている「元氣だしていこうか」もKさんの字です。いつもは楽しいことが大好きなKさんですが、「書家」の時は顔つきも変わり、真剣そのものです。そのKさんがこの度還暦を迎えました。

還暦を祝う会では、利用者さん、施設長、支援員、庶務職員等、たくさんの方が祝いにかけつけてくれました。Kさんの人柄の賜物です。会の一歩のメインは「還暦記念の書」皆さんが見守る中、K



さんの「幸」、そして皆さんにたくさんのお幸が訪れますようにと願いを込めて、「幸」の字を書いていただきました。力強く、そして優しく、Kさんを感じることでできる字です。人生 かわらないガンバル ひと筆ひと筆心をこめて・・・。「障がい いや」「生きるって」とKさんに聞かれ、すぐに答えられない未熟者の私ですが、これからも寄り添い歩んでいきたいとおもいます。

めぐみ
#####

主任 清水 元晴

めぐみの玄関を入るとすぐにカラフルなステンドグラスが迎えてくれます。これは職員が画用紙

を加工してラミネートしたもの、ご利用者様が色を塗って仕上げた手作りの作品です。日頃の活動ではストローを容器に入れるプツ

トイン作業や絵カード合わせ、オリジナルのメモ帳作りなど数多く用意してある軽作業を中心に取り組んでいますが、時には装飾品作りも行い室内を賑やかに彩って



玄関のステンドグラス



クリスマスの飾り

くれています。

夏期にはグ

リーンカーテ

ンとしてゴー

ヤを育て、収

穫した実で

スープを

作る調理

実習を

行った

り、時に

は余暇支

援として

外出も行って

います。今年

は新年が明

けてすぐに

白山神社

へ行き、初

詣の参拝も

行いま

した。

室内作業や

歩行などの

日中

活動を一

生懸命に

美味しいスープを作ります！



白山神社での初詣

障がい者相談支援のこれから

新潟市障がい者基幹型
相談支援センター中央
相談支援専門員

山田 恵

昨年四月、障がい児・者相談支援センターに異動になり相談業務をおこなっています。

障がい児・者相談支援センターは新潟市から業務を委託され、地域で暮らす障がい者の相談支援をおこなうことを目的に平成十五年十月に開設されました。初代相談員である本田ゆり子さんが昨年三月で定年退職され、その後任として業務を引き継ぐこととなりました。

新潟市には障がい児・者相談支援センターをはじめ市から委託されている相談支援事業所が十一箇所ありますが、これら事業所が四つに再編され、新潟市障がい者基幹型相談支援センターとなりました。昨年十月から業務を開始し、この四月からは新潟市障がい者基幹相談支援センターとして正式に発足することになります。

障がい者基幹(型)相談支援センターは市内四箇所設置されています。私が勤務している基幹センター中央は総合福祉会館一階にあります。基幹センター西、基幹センター東、基幹センター秋葉は各区役所の中に設置されています。

基幹センターに寄せられる相談ですが、障がい者の生活や就労に関する相談をはじめ、児童相談所からの虐待ケース、触法障がい者の地域移行、精神障がい者の生活に関する相談など様々です。困難ケースについては基幹センターだけでは対応できないため、各機関との連携を図りながら、チーム支援をおこなっています。わが法人にも、らいふあつぷ、ジョイン、ゆかり、十字園のコールセンターからびな、はまゆうの地域包括支援センターなど、行政から委託を受けた相談支援事業所があります。お互いがその役割を再確認し、連携を図りながら、相談支援の充実を目指していきたいと思えます。

新しい利用者さん
こんにちは!

さつき寮

倉谷 留美さん



昨年十月からお世話になっております。倉谷留美です。今まで二十三

年間いずみ福祉園に通所していました。

お仕事大好き、ドライブ大好きです。これからの生活に慣れて、お友達と仲良く楽しい毎日を過ごしたいと思えます。

職員の皆様にあたたく支えて頂き、感謝しております。どうぞよろしくお願い致します。(母代筆)

いぶき寮

本間 一子さん



私は佐渡生まれの五十五歳です。八歳から静岡の施設で暮らし、三十五歳からは佐渡の施設に居ました。父母はすでに天国へ。九人兄弟の末っ子です。

趣味は散歩・ドライブ・バス旅行。好きなものはケーキ・焼き肉です。十字園に入れて一番嬉しいことは、近所に姉や兄がたくさん居て今までよりたくさん「お出かけ」に連れて行ってもらえることです。特にスタバやマクドナルドが気に入っています。イオンも大好きです。みなさんよろしくお願ひします。(姉代筆)

お別れ



いぶき寮

八幡 日出男さん

H 26・10・23 永眠

「日出男さん!」「おーい、ひでさん、来ましたてー!」いつも、日出男さんの周りには人が多く集まっていたね。優しい笑顔と声、「日出男は、いい男だ。エヘッ。」と、自画自賛する愛嬌は、人を引きつける魅力がありました。また、日出男さんは私たちに、普段、そこに存在するのが当たり前だと思いがちな人の人生・命の尊さ、人が人に与える活力の偉大さを、今一度見つめ直す機会を下さいました。(山口)